



## 東大寺は、どんなお寺なの



奈良時代に聖武天皇しょうむてんのうがつくった、大仏だいぶつを本尊ほんぞんとするお寺だよ。

### 聖武天皇がつくった

743年、聖武天皇が、近江おうみ（滋賀県）の紫香楽宮しがらきのみやで、大仏をつくることを発表しました。翌年、紫香楽の甲賀寺よくねんこうがでらで工事を始めたのですが、745年に、都が紫香楽から平城京に移ったので、大仏は、平城京の東にある大和国国分寺やまとのくにこくぶんじの金光明寺こんこうみょうじの土地につくることになりました。大仏をつくっている最中の747年ごろから、東大寺とよばれたようです。749年に大仏の鑄造ちゅうぞうが終わり、752年に開眼供養会かいげんくようえ（大仏に神聖な魂しんせい たましひを入れる儀式ぎしき）が行われました。その後も、大仏殿だいぶつでん（金堂こんどう）・講堂こうどう・僧坊そうぼう・東塔とうとう・西塔さいとうや、鑑真がんじんを迎える戒壇院むかかいだんいんなどが建てられて、広くて豪華なお寺になりました。

### たくさんの文化財が残っている

855年、地震じしんで大仏の頭が落ち、861年に修理が終わりました。その後、建物の火災が相次ぎ、1180年には平氏の攻撃へいしこうげきによって、ほとんどの建物が焼けました。その後、重源ちゅうげんという僧や、源頼朝みなもとのもよりともしぞく・貴族たちの後おしで、大仏の鑄造ちゅうぞうや大仏殿の復興ふっこうが行われ、宋の陳和卿ちんなけいという職人がうでをふるいました。また、大仏殿の脇侍わきじ（本尊の左右に立つ仏像）や、南大門なんだいもんの金剛力士像こんごうりきしぞうをつくるときは、運慶うんけい・湛慶たんけいなどの慶派の仏師が活躍するなど、鎌倉時代の新しい美術の発展に、大きな役目をはたしました。1567年にも戦乱せんらんで焼け、大仏の修理が終わったのは1692年、新しい大仏殿が完成したのが1709年です。

このような、たびたびの災害にもかかわらず、東大寺には、奈良時代からの各時代の文化財がたくさん残り、大部分が国宝や重要文化財に指定されています。